

2024 年度夏季 グローバル・インターンシップ(GI)プログラム 参加報告書

学部:人文 学科:日本・東アジア文化 学年:3 年

① インターンシップ先
旅工房(旅行会社)

② 参加の目的

私が今回のプログラムに参加しようと考えた理由は 3 つあります。1 つめは柔軟性を身に着けたいからです。今回のプログラムでは海外の方と共に働き、お客様も海外の方を対象とする場合がほとんどです。その場合、ずっと日本で生活してきた自分とは異なるバックグラウンドを持つ人と接する機会が増えます。その異なる価値観や考え方を受け止められる柔軟性を身に着けたいと考えました。就業だけでなく、学業面でも他の人との違いを受け止め、自分の成長に繋げられる力は必要だと考えています。2 つめの志望理由は、海外の方と仕事をしたり、海外の方をお客様として仕事をしてみたいと思ったからです。大学を卒業して、仕事をする際に、グローバル化が進んでいるため日本人だけと働いていく可能性は低いと考えています。そのため大学生のうちに、海外で働けるこのプログラムに魅力を感じて志望しました。3 つめの理由はベトナムの発展した面を見てみたくなったからです。3 月にベトナムを訪れた際は、障害者の方が働く施設や孤児院などを訪れており、発展した面は見られていませんでした。しかし今回の説明会で、ベトナムが今発展していることを知り、本当にそうなのか見てみたいと思いました。

③ ベトナム:オンラインでの事前講座について

オンラインでの事前講座について、その簡単な流れとその講座を受けた感想や学んだことについて述べます。まず私が受けた講座は、2 日間にわたっておこなわれました。いずれも個人で活動するというよりは、グループ活動がメインでした。このグループは初対面同士で、「zoom のブレイクアウトルームに入って、自己紹介をしてください」という指示以外何もなく、リーダーや司会も自分たちで決定します。最初はさぐりさぐりでしたが、どうにか自己紹介はできました。1 日目は、海外で活躍する日本出身のビジネスパーソンの方に、ゲストスピーカーとしてお越しいただき、お話を伺うことがメインの活動でした。最初にビジネスパーソンの方に、簡単な自己紹介(海外でどのような仕事をしているのかなど)をしていただき、その後気になった点について、講座の参加者が質問をする活動をしました。2 日目は、グループ自体は変わらず、外国人の学生とそのグループのメンバーで話しました。最初はどの国出身か、趣味はなにかなどの話から始まり、最終的に就職や職業について、どう考えているのかお互いに話すことを目標に活動がおこなわれました。その後、2 日間のオンライン講座で得た学びや、現地でおこなうインターンシップの決意表明などをして、2 日目は終わりという流れでした。

1 日目と2 日目で行った活動が異なるので、それぞれの感想や学んだことを順に記します。まず 1 日目全体を通して、思ったことは自分が知らなかっただけで、海外で働く方法はたくさんあるということです。私は海外で働く＝現地で企業に雇われることだと考えていたのですが、実際にお話をうかがうと、日本企業から駐在員という形をとって、海外で働いている方もいれば、海外で起業された方もいらっしゃいました。また企業に雇われた方に、どういう流れでそうなったのかとうかがったところ、雇用の流れは、そこまで日本と変わらず、日本国内でオンライン面接を受けて、合格し、現地に渡ったとのことでした。海外で働く方法はたくさんあることや、面接がオンラインでも就業可能なことをうかがって見て、海外で働くハードルが下がりました。次に 1 日目で学んだのは、海外で働く場合は、積極性が必須ということです。仕事に応募する段階でも、業務をおこなう段階でも、自分からコミュニケーションをとったり、その国の文化に自分から合わせにいく必要があると、話を聞いていて感じました。これ

は実際に、インターンシップに行った先でも感じたことで、日本と比較して、受け身の姿勢だとチャンスが巡ってこなかったです。

次に2日目全体を通して、言語はある程度身についていない、と会話にならないことを強く感じました。先に述べたように、2日目の最終的な目標は、外国人の学生と就職や職業のことについて、意見を交わすことだったのですが、その前段階の趣味の話などの段階で、聞き取れないことが多く、会話についていけませんでした。言語の力が足りていないのはもちろん、オンラインで、大人数で話し合うことの難しさを感じました。

④ 現地でのインターンシップについて

私は旅工房という旅行会社で、インターンシップを行いました。まずその業務内容について、挙げます。主な業務として、4つのことを行いました。1つめは大学講演用資料の作成です。担当者の方が大学で、講師として、講演を行うとのことだったので、そこで使用する資料をパワーポイントで作成しました。2つめは、ベトナムのリゾート地であるダナン・ホイアンの資料をお客様向けに、作成することです。それぞれのおすすめスポットや、レストランなどを紹介に盛り込みました。3つめはホテルの視察とその成果をレポートとしてまとめることです。ホテルの設備や、周辺のスポットなど、日本人が旅行先のホテルを決める際に、重視することを日本の本社に送るためパワーポイントにまとめました。4つめは他社研究を行うことです。他社研究の一環として、各社のツアーで使用されているホテルをExcelにまとめ、そこからどのようなホテルが起用できるか検討しました。

次に勤務体制について記します。私が今回インターンシップをおこなった際は、月曜日から金曜日までの5日間勤務し、土曜日・日曜日は休日という流れでした。勤務時間は、8:30～17:30(12:00～13:00は昼休憩)で、月・水・金曜日はリモートワークが認められていました。その曜日は、ホテルやカフェなどで作業することもありました。業務とは別にミーティングが週に数回あり、そこでは売り上げやインターンの振り返りなどをおこないました。

⑤ インターンシップによって得られた学びや気づき

インターン全体を通して、学んだことは以下の3つです。1つめは「まずやってみる」ことの大切さです。インターン生として、業務を行っているときだけではなく、日常生活でそのように感じました。Grab(日本のタクシーのようなもの)を使ったり、他の人が使う資料を作成するのは、初めての経験だったので、慣れておらずできていないことも多くありましたが、挑戦する機会がないと、そういうことにも気がつけないので、そういう環境に来ることができたのは、とても幸運なことだったと思います。2つめに働くためには、いろいろな場所に目を向ける必要があることを学びました。写真撮影などの業務に関係する行動は、もちろん、睡眠時間を確保するなど業務と直接的には、つながらない日常生活で、気にかけるべき点が多いと感じました。3つめは足りないものが多いことです。Excelやパワーポイントなどの使い方以外にも、簡単な英語が発音のせいで、伝わらないなど改善したい点が多くありました。4つめは報連相の大切さについてです。今回のインターンシップでは、私の他に2人インターン生が職場にいて、3人で同じ業務を分担して、おこなう形が多かったのですが、同じ話を聞いていても、微妙にやろうとしていることがずれていたり、どういうスケジュールで、作業を進めていくかについて違いがあったりしたので、話し合う回数を増やして、逐一今自分は何をしているのか共有していました。共有すると、作業が進みやすくなるので、その点はきちんと話ができてよかったと思います。今回改善点が多いと気がつけたことを、プラスに捉え、帰国してからもそれらの改善点と、それをより良くするという気持ちを忘れないようにしたいです。

ベトナムで学んだことは以下の2つです。1つめは挨拶の重要性です。日本だと難しい言葉は、ともかくとして、お互い同じ言語を使用するので、コミュニケーションがとれないことはめったにないのですが、ベトナムだと使用する言語が異なるので、最初の挨拶の持つ意味が大きいと気がつきました。例えば、タクシーに乗る際、最初と最後に必ず「Xin chào(シンチャオ・こんにちは)」と「cám ơn(カムオン・ありがとう)」を言うと、最低限感謝しているのは相手に伝わると肌で感じました。もちろん、他の言

葉も覚えておけば、より会話が弾んだり、コミュニケーションがとれるようになるメリットはあると思います。2 つめはコミュニケーションの方法についてです。英語を話すとなると、相手も自分も完全には理解できないことが多いので、言葉以外で伝える大切さを学びました。例えば言葉だけでは、伝わらないなら絵をかいいたり、写真や図を見せたり、身振り手振りをしたりするといった方法が、考えられます。いきなり会話ができない・わからない状況に置かれると、焦ってしまうので、こういう方法があると知っておくだけでも役立つと感じました。

⑥ 準備期間・インターンシップ期間中に困ったこと、苦労したこと

準備期間で困ったこと、インターンシップ期間中に困ったことと、そこをどう解決したかについて述べます。まず準備期間に困ったのは、何を持っていくか考えることです。今回のインターンでは、3 週間現地に滞在する予定でしたが、そこまで長く家を離れたことがなかったので、何を持っていくべきかという点について、ぎりぎりまで悩みました。最終的には、いろいろな人の SNS を見て、判断したのですが、現地で、日本とほとんど変わらないものが購入できるので、そこまで神経質にならなくてもよいと今回の渡航を通して、思いました。

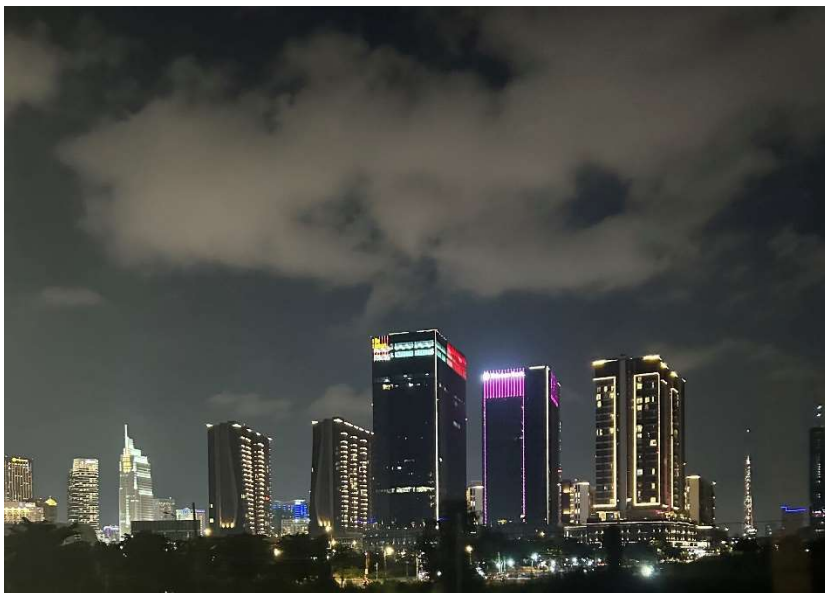
次にインターンシップ中に困ったのは以下の 3 つです。1 つめは、パワーポイントや Excel が思ったよりも使いこなせないことです。今回の業務では、その 2 つを使用する機会が多くありました。しかし、私はほとんどこれらを使用したことがなく、最初は行を変えるなど基本的な操作もできない状態でした。インターンが始まって、少しの間は、どの操作も検索をかけて、解決するようにしていたのですが、それだと時間が足りないと感じ、1 日 10 分は勉強をするように自分に義務付けました。学んだことのすべてが今回の業務で、役立ったわけではないのですが、勉強することで少しでも使いこなせる状況に近づけたのは実感しました。2 つめは英語を使つての会話が思った以上に難しいことです。業務の中で、ホテルに 1 人で訪問して、質問する時があったのですが、発音のせいでうまく伝わらなかったときは焦りました。しかし資料を作成するうえで、必要な質問だったので、作っている資料の写真をフロントの方に見せたり、文字で書いて説明することで、必要な情報を得ることができました。その時は、それで事なきを得たので、良かったのですが、簡単な英語は自力で伝えられると、より会話がスムーズになるだろうと思った出来事でもありました。3 つめは、担当の方との報告・連絡・相談についてです。まずそのタイミングをいつにするかで迷いました。1 日目に課題について説明され、最初に他社研究に取り組んだのですが、2 日目にやってほしい他社研究と違っているということと、これからはラフをつくった時点で、報告してほしいことを言われました。他にも報告や連絡する手段が、その場の状況に適したものでなかったりするなど失敗も多くありました。しかし中盤以降は、ひとつひとつ聞きたいことを聞くというよりは、日報(今日は何をしたか、明日はどのようなことをするかなどを記録するもの)に質問をまとめて書いたり、ある程度のところまで進んだら、チャットにその成果物を投稿し、チャット上でフィードバックをいただけるようにしていました。対面以外にもコミュニケーションがとれるツールがあるなら、その活かし方を考えるべきだと強く感じました。

困ったことや失敗したことが多くあったのですが、自分なりにどう解決すればいいのか、考えるいいきっかけになりました。そういった機会をいただけたことに感謝して、これからの生活にいかしていきたいです。

⑦ グローバル・インターンシップ(GI)プログラムに応募する後輩へのアドバイス

行く前まで、3 週間普段とは違う場所で過ごすことを不安に思っていたのですが、終わってみればあっという間の 3 週間でした。大学生の今、海外で働いて、学べることは多くあるので、費用や言語の面など不安なことはあると思いますが、迷っているなら説明会だけでも参加することをおすすめします。

⑧ 思い出の写真(説明書きも加えてください)



1 枚目の写真は、ホテルの視察に行った際に見た景色です。写真だと伝わりにくいのですが、車や船の動きをゆっくりと眺められました。2 枚目は、バスツアーに参加した際に撮った写真です。暗い中で、高層ビルの光が映えていて、とてもきれいでしたし、ベトナムが発展しつつあるとよくわかりました。